

CAMPUS NEWS

vol.120



CONTENTS

【SPECIAL FEATURE 特集】

夢をかなえた先輩たち
(内定者インタビュー)・(紹介)

【REGULAR CONTENTS】

地域×研究 (長野大学 研究紹介)

サークル紹介

内定者インタビュー



夢をかなえた先輩たち

Webで開催した2021年度オープンキャンパスに参加した高校生から多く寄せられた質問の一つが「就職」についてです。就職内定を得た先輩たちは、どのようにその夢を実現し、内定につなげていったのかを、各学部の就職内定者に聞きました。



就活はいつから始めた

企業の採用選考は、大学3年生の3月から採用情報が解禁され、就活サイトへの登録や会社説明会などが始まります。しかし、実際には3年生の夏頃からインターンシップに参加したり、志望業界で働く卒業生を訪問したりする学生も多く、さらにコロナ禍ということもあり、本格化させた時期は様々なようです。では、先輩たちが実際に就活を始めたのはいつ頃だったのでしょうか。



半澤成美さん(環境ツーリズム学部4年、株式会社星野リゾートに内定)は、1、2年生の頃から1dayインターンシップに参加していたそうです。3年生を終えた頃にオーストラリア留学を予定していましたが、コロナ禍で行けなくなり、「就職に気持ちを切り替え、3年生の2月から準備を始めた」といいます。

木内直哉さん(企業情報学部4年、株式会社八十二銀行に内定)は「3年生の3月から」、中山智尋さん(社会福祉学部4年、株式会社アクシスウェアに内定)は「本格的にエントリーしたのは3年生の5月から」ということでした。



株式会社
星野リゾート

半澤 成美さん
環境ツーリズム学部 4年
(山形県立山形北高等学校出身)

就職先を決めた理由は

経済産業省が日本国内に所在するすべての事業所・企業を対象に5年に一度行っている「経済センサスー活動調査」によると、日本の企業等数は約386万企業(2016年6月)。その中から先輩たちはどのように就職先を決めていったのでしょうか。



大学入学時、教員を目指していたという中山さんは、2年生の頃から民間企業に関心を持ち始めたそうです。起業することも考えたそうですが、「関心がある地方創生に関われる仕事はないか」と、業種を絞らずに様々な企業を調べ、ITコンサルティング会社を選んだといいます。少しでも多くの企業を知ろうと250社以上にエントリーし、最終的には10社に絞って就活を行う中で、内定先を選んだポイントは「この会社の人たちと働きたいと思えるかどうかだった」といいます。将来は、「みんなのモチベーションを上げる起爆剤のような人になりたい」と熱く語ってくれました。

半澤さんは、旅行の満足度を左右するのはホテルと考え、ホテル業界への就職を目指していたといいます。幼少期、両親が仕事で忙しく、家族で旅行をした経験が少なかったため、テレビや雑誌などで旅行への憧れを膨らませていた半澤さん。大学生となって様々な場所を旅行する中で、大きな感動を味わい、旅行の素晴らしさや日本が持つ観光資源を多くの人と共有したいと思い、旅行業界で働きたいと考えようになったそうです。コロナ禍で旅行業界の状況が厳しい中でも、積極的に50社にエントリーして8社の選考を受けました。内定を得たのは第一志望の企業。「常に夢を持ち、それを全力で追いかける人でありたい。いつか自分で宿を開業し、最高のおもて

なしを提供したい」と新たな夢を描いています。

木内さんは、長野県内のメーカーの営業職を含めて、20社にエントリーし、7社の選考を受けました。その中で銀行を選んだのは「企業が未来へ向けての投資の原資として銀行の融資があり、それはこれまで学んできたゼミナールでの活動に近いと感じられる仕事だと思ったからです」といいます。「ゼミでは実際にある企業の課題を特定し、それを解決するサービスや商品を考えて、最終的にその企業に提案する研究をしていました。一つの企業だけでなく様々な企業に関わる中で、ゼミでの学びを最も活かすことができるのは金融業だと考えました」と、銀行の仕事を通じて、地方の発展に寄与したいと語ってくれました。

学生生活と就職

希望の企業への就職という一つの夢をかなえた先輩たちですが、その夢を決めるまでには大学での学びや様々な経験があったはずですよ。どんな学生生活を送ったのでしょうか。



木内さんが長野大学を進学先として選んだのは、現在所属しているゼミナールに入るためだったといいます。2年生の時、ゼミナールのグループリーダーを任せられ、人と関わることの難しさを痛感、サブリーダーである1学年上の先輩に助けられました。その経験から「自分にはどんなやり方ができるのかと悩みながらも、目の前の壁をどう乗り越えるかを考えながら行動できる今の自分に成長することができた」と話してくれました。

国際キャリア英語コースを3年間履修し、海外文化やビジネス英語を学んできた半澤さんは、コースを履修したこ



株式会社
アクシスウェア

中山 智尋さん
社会福祉学部 4年
(長野県飯田風越高等学校出身)

とで様々な人に出会い、視野が広がったといいます。また、半年間イギリスLanguages Unitedへオンライン留学をしたことでより理解が深まったそうです。「オンライン留学は22時ごろから毎晩1時間、刺激的で充実した時間を過ごしました」と半澤さん。TOEICの得点が200点上がり、履歴書でのアピールポイントとなりました。

中山さんは、「同じ学部の福祉や心理を学ぶ仲間からいろいろな話を聞いて刺激をもらう機会は多かった」といいます。教職課程を学ぶ中で、今後社会で求められる自走できる人材を、主体的な学びでどのように輩出していくのか、そのために必要なことや自分たちができることは何かといったトピックを思考してきたそうです。その結果、教育現場の深刻なIT化の遅延といった現状を目の当たりにしたこともIT業界を目指すきっかけになったと話してくれました。

後輩たちへのメッセージ

半澤さん「就職活動は、自分の人生を考えるきっかけになります。活動がうまくいかないこともあります。常にポジティブに考えてほしいですね。必ず道は開けます」

木内さん「どんな物、どんなこと、どんな人でもいいので、心の拠り所を作っておくと気持ちが楽になります。僕の場合は動画サイトの就職の情報でした。普段から自分の役割とか、やらなければいけないことを意識して過ごすことも大切です」

中山さん「就職活動に限らず、自分が幸せになるってどんなことをイメージして、その実現のためにどんな行動をしていけばいいのかを常に意識してほしいですね」



株式会社
八十二銀行

木内 直哉さん
企業情報学部 4年
(長野県上田梁谷丘高等学校出身)

【夢をかなえた先輩たち】

内定者紹介

4年間のキャンパスライフで先輩たちは何を学び、何を見つけたのか。
就職活動を終えて、これから社会へ羽ばたいていく先輩たちを紹介します。



「長野県を住民から愛される地域にしたい」

社会福祉学部 手島 有咲さん (長野県上田高等学校出身)

長野県庁 (行政職)

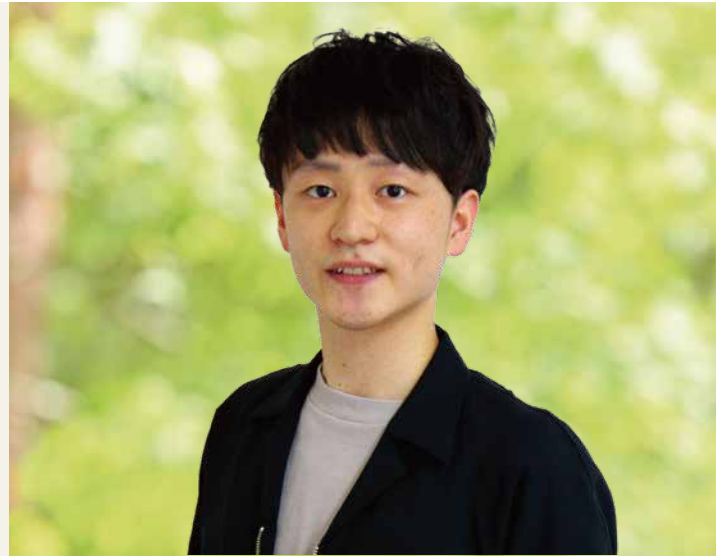
長野県庁を志望したのは、仕事で接する相手や地域が幅広く、長野県全体に関わっていける職場だと感じたからです。大学の学びの中で、支援を必要とする人に寄り添い、状況の変化に応じて多職種と連携をしながら働く社会福祉士の活躍を目の当たりにし、立場の弱い人や見落とされがちなことに目を向けることの大切さを実感しました。また、タイの少数民族の村でホームステイを経験し、国や言語は違っても、相手を思いやる気持ちが「人と繋がる」基礎になることを学びました。こうした経験から得たことをぜひ仕事で活かし、自分が生まれ育った長野県を住民から愛される地域であり続けられるよう頑張ります。

「地域密着の金融サービスでまちを豊かにしたい」

環境ツーリズム学部 夏目 優太郎さん (新潟県立新井高等学校出身)

株式会社長野銀行

人々の生活を支え、まちを豊かにしたい。そんな思いで私は長野銀行を選びました。金融業は、金融サービスを通じて地域の人々の悩みや課題を解決することができます。さらに地域に密着した長野銀行なら、地域の人々や企業と出会い、様々な経験を積むことができ、自分自身も成長できると考えています。まちづくりや地域創生について学んだゼミでは、商店街を活性化させるために、上田市の小学生親子を対象に商店街を巡って職業体験できるイベントを企画立案し、実施しました。多くの地元の人々と出会い、温かさに触れることができました。仕事でもそうした地域の人々が困ったとき、一番に相談したいと顔を思い浮かべてもらえるような銀行員になりたいと思います。



「わくわく感が感じられる商業施設をつくりたい」

企業情報学部 志水 しほさん (長野県大町岳陽高等学校出身)

イオンリテール株式会社

子どもの頃、祖母が連れて行ってくれたショッピングセンターのわくわく感が忘れられず、その気持ちを多くの人に伝えたいと、小売りや商業施設を運営するイオンリテールへの就職を決めました。大学では、生協学生委員会に所属し、新入生歓迎行事や生協店舗の投書コーナーの運営、大学祭への出店などを行いました。委員長として委員の意見をまとめて方向性を決めたり、各署との調整をしたりする中で、私らしいリーダー像を見つけることができたと感じています。社会的課題解決に取り組む事業者を応援する「エシカル消費(論理的消費)」を狙った大学祭での出店は、企業情報学部で学んだことを実践できたと感じています。就職先でさらに力をつけて、将来はテナントの誘致や管理などに携わりたいです。



【サークル紹介】

大学生活をより充実

長野大学には50を超える大学サークルがあります。
ここではスポーツ系、文化系、ボランティア系から各1団体の活動内容を紹介します。



ダンスサークル

私たちダンスサークルは、毎週月曜日の15時から19時30分まで大学内のイベントホール「リプロホール」で活動しています。部員は40人。ホールには毎回ヒップホップやジャズ、ロック、ワック、チア、テーマパークダンス、Kポップやアイドルのカバーダンスなど様々なジャンルで踊るグループができて、各自の日練習したいグループに参加して汗を流しています。主な発表の場は地域のイベントと大学祭です。部員の半分以上はダンス未経験者ですが、先輩・仲間のレクチャーや一人ひとりに合わせた練習で、どんどん上達しています。

傍島 帆香さん
社会福祉学部3年
(岐阜県立長良高等学校出身)



デザイン同好会「コトポート」

デザインに関心を持つ学生有志で2020年に発足したコトポートは、伝えたい「こと」や大切にしたい「こと」が集まる港という意味を込めてみんなでつけた名前です。メンバーは19人。今年はデザイン未経験の1、2年生7人が加わったので、簡単な制作物の作成や、町中の古い看板から見つけた個性的な文字のフォント化などを通じてデザインの基本を学んでいます。また、表現の幅を広げるため、毎週「お題」に沿ったイラストやタイポグラフィーを各自が制作してインスタグラムで発信。メンバー同士で評価も行き、切磋琢磨しています。

岡田 ういさん
企業情報学部3年
(長野県私立文化学園
長野高等学校出身)



ボランティアサークル「ゆいま〜る」

1~4年生の45人が活動するボランティアサークルです。コロナ禍以前は、毎週水曜日に障害者支援施設や特別養護老人ホームを訪ね、利用者さんとおしゃべりやゲーム、お菓子作りのほか、行事のお手伝いなどを行っていました。今は感染防止のため施設に行くことができません。そこで、手描きのイラストでぬりえを作ったり、自作の紙芝居を動画にして施設に届ける活動を始めました。さらに今年度からは、2019年台風19号の被災写真の洗浄をするボランティアにも取り組んでいます。

大藏 紅葉さん
社会福祉学部2年
(長野県私立伊那西高等学校出身)
仲田 晴香さん
社会福祉学部2年
(静岡県立島田高等学校出身)



★その他のクラブ・サークル紹介は、https://www.nagano.ac.jp/campus_life/circle_2021/でご覧いただけます。

地域×研究

長野大学では、長期的展望に立ち地域から世界につながる多様な独創的研究を推進することを大学ビジョンのひとつとして掲げています。こうしたビジョンの実現に向け、長野大学の教員は、地域を主題とする研究の深化と教育・地域活動への活用を日々実践しています。



地域政策学の視点で
地域活性化の方法を見つける

環境ツーリズム学部 古平 浩 教授 【主な担当科目】 地域交通論 観光と地域ビジネス

国内外の事例を検証し、実務に反映させる実証の学問

研究分野は、地域政策学からの「地域社会研究」です。地域政策学は地域に関わる様々な問題を把握して、政策的にその解決法を考える実証の学問です。地方分権化とグローバル化が急速に進行する現在、国内外の研究成果を実践成果に反映させ、地域政策の実務に対してアプローチを行う、ダイナミズムな学問です。そのため、地域社会研究には、地域に存在する複雑な現象や諸問題を理解するために、国内外の事例を参考にしながら、地域社会や地域政策の役割について研究を進める仕組みづくりが求められています。個別事例の検証を持ち寄り、地域再生を実現するプロセスや技術、手法について、地域政策学の観点から考えます。

地域社会の実情を捉え、考える

近年私が取り組んでいるテーマのひとつに、伝統産業の後継者問題があります。例えば信濃町の打刃物、飯山の仏壇、上田の紬、木曾の漆器などが伝統産業にあたるのですが、どこも後継者がいなくて困っています。このような地域における問題を、政策的にどう解決できるか考えていきます。もっと具体的には、伝統産業は昔から地域経済を支えてきました。信濃町の打刃物であれば、農業収入だけで暮らせないと、プラスアルファとして打刃物を作ってきたわけですから。地域経済を支えてきた伝統産業を守り、伝える人材

をどう残していくか。例えば鎌は100円で買えるものもありますが、手で打った鎌は4000円もします。しかし、40倍使えるかということ、決してそうではない。そこにどのような価値を見出して、技を後世に伝えていくのかを考えていきます。地域政策学からの地域社会研究は、地域の社会・経済活動を持続させていくサイクルや手法を探していくところにその意味があるのではないかと考えています。

その他に、長野県地方自治研究センターとの共同研究として、長野県内の自治体における「人口減少下の自治のあり方」について、長野県立大学などの先生方と共同研究に取り組んでいます。とりわけ長野県内の南信州地域では、平谷村で389人、売木村549人、根羽村853人と極めて人口の少ない自治体があります。こうした自治体のコミュニティの現状から、その地域が将来にわたって持続できる社会の仕組みについて考えています。

古平 浩教授からのメッセージ

地域政策学は、実践の学問です。みなさんの身の回りの社会の出来事、その仕組みに対してアプローチするものです。その範囲は、教育や福祉、産業振興、地域づくりなど多岐にわたります。そうした社会の事象にたいして、興味関心をもって取り組むことが大切になります。



人権思想に根差した
多文化共生社会の形成

社会福祉学部 新田 さやか 准教授 【主な担当科目】 地域福祉と包括的支援体制

日韓のハンセン病研究を通して地域福祉の実践を考える

大きく2つのテーマで研究に取り組んでいます。1つ目は、「日本と韓国におけるハンセン病回復者を包摂する社会的基盤形成に関する研究」で、日本と韓国のハンセン病政策について20年ほど研究を続けています。隔離政策に対する問題意識は、学生時代に訪問した国立ハンセン病療養所の入所者の方たちとの関わりから生まれました。日本と韓国のいずれにおいても回復者の方たちは高齢化し、自らの体験やハンセン病政策の問題について語ることでできる人は限られてきています。回復者やその家族の声に耳を傾ける「聴き手」を社会で育てていくことは、この問題への共感的理解の形成につながります。研究を続け、人権思想に根差した地域福祉の実践的アプローチにつなげたいと考えています。

移住女性が主体的に生きられる社会づくりから多文化共生を探る

2つ目は、「結婚移住女性のエンパワメントに関する研究」です。私は2009年以降、韓国の外国人移住生活者をめぐる地域での社会福祉政策研究に携わってきました。韓国では主として、結婚移住女性と韓国男性からなる多文化家族に対する支援政策、外国人労働者に対する雇用許可制度など、移住者への政策的な取り組みは日本よりも先行しています。調査研究の過程で、民間団体によって人権問題として移住者の生活支援が進められていることや、そうした実践を経て地域において問題の共有化が図られ、政策の不備を改善するべくソーシャルアクションがなされたり、結婚移住女性

のエンパワメントが実践されたりする多様なアプローチが、地域を基盤に展開されていることがわかりました。とくに、結婚移住女性によるコミュニティ形成の可能性は示唆に富んでいます。言語、文化、生活習慣などが異なる環境で生活する結婚移住女性は、夫からの暴力や夫家族との関係の困難さ、出身国に対する偏見などによって家族や地域社会から孤立し、パワーレスな状態に陥ることがあります。その背景には、男性中心の社会構造が存在し続けること、国籍や性別に対する差別や排除といった課題があります。多文化化する今日の社会において、移住女性たちが自ら活動し、主体的に生きられる場をどうつくるか、地域での活動の調査を通して考えたいと思っています。2つの研究は、病、国籍、性別といった、「生」に関わる社会的排除のメカニズムを明らかにし、人権思想に根差した多文化共生社会の形成に寄与する意義をもつものなのです。

新田 さやか准教授からのメッセージ

人は人との出会いによって変わっていきます。だからこそ、自分から様々な場所に足を運び、そこで営まれる生活を知り、人々が生きてきた歴史に学んでほしいです。私は学生時代にハンセン病療養所をはじめ、福祉施設、東京の山谷地区などに赴きました。ハンセン病回復者や路上生活者の生の現実は、私にとって、社会が生み出す排除の問題を考えるきっかけとなり、その問題意識は現在にいたるまで続いています。コロナ禍で社会の周縁におかれる人たちが今をどのように生きているのか、一人ひとりの声に耳を傾け、考え続けてほしいと思います。

上田駅前広場「真田幸村公の騎馬像」

上田駅のシンボルとして親しまれている、戦国武将・真田幸村公の騎馬像。幸村は、大坂夏の陣での果敢な戦いなどから「日本一の兵」と称され、2016年大河ドラマ「真田丸」ではその生き様が取り上げられた。銅像は1983年、上田城築城400年を記念して上田市出身の成沢定平氏より上田市へ寄贈された。



〈表紙の長大生〉

田中すみれさん 社会福祉学部3年
(長野県私立飯田女子高等学校出身)

生まれ育った飯田の地域福祉に貢献したいと、短期大学で介護福祉士の資格を取得しました。そこで福祉分野の奥深さに触れ、もっと視野を広げるため、今春長野大学へ編入学しました。社会福祉士の資格取得を目指しています。大学では要約筆記のボランティアサークルにも参加し、充実した毎日です。

田中 利来さん 企業情報学部3年
(長野県長野市立長野高等学校出身)

2年次からソフトウェア開発のゼミに所属し、3Dを使った「間違い探し」のゲームアプリを4人で制作しています。単なるアプリ開発ではなく、「新しいものを生み出す」「ゲームで社会に貢献する」を目標に取り組んでいます。4人の意見がまとまって同じ方向を向いた時、チームでつくる楽しさを感じます。就職活動でも自信を持って紹介できるクオリティの高い作品を完成させたいです。

長野大学キャンパスニュース

CAMPUS NEWS vol.120

発行：2021年11月
長野大学アドミッションセンター運営委員会

〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1
TEL：0268-39-0020
mail：kouhou@nagano.ac.jp
ホームページ：www.nagano.ac.jp



入試情報

一般選抜

試験区分	募集人員	願書受付期間 (消印有効)	試験日	試験科目・配点	試験会場
前期	社会福祉学部 45名	2022年 1/24 (月) ～ 2/4 (金)	個別学力 試験を 課さない	大学入学共通テスト計4科目600点満点に 業績点4点満点を加え、合計604点満点で判定 ●大学入学共通テスト 【社会福祉学部】 ・「国語」(200点)必須 ・「外国語」(200点)必須 ・「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」の受験した科目の中から上位2科目(100点×2=200点) 【環境ツーリズム学部】【企業情報学部】 受験した科目を100点満点換算し、上位4科目(100点×4=400点)を活用する。4科目の上位2科目をそれぞれ2倍して200点満点とし、残り2科目をそれぞれ100点満点とする。 ※国語と外国語は200点を100点に換算する。 なお、同一教科の2科目でも有効とする。「理科」の「基礎」を付した科目については2科目で1選択とする。	—
	環境ツーリズム学部 32名				
	企業情報学部 32名				
公立大学中期	社会福祉学部 30名	2022年 1/24 (月) ～ 2/4 (金)	3/8 (火)	大学入学共通テスト4科目と個別学力試験2科目 の合計点計6科目400点満点に調査書10点 満点を加え、合計410点満点で判定 ●大学入学共通テスト 受験した科目の中から上位4科目(50点×4=200点)。 なお、同一教科の2科目でも有効とする。「理科」の「基礎」を付した科目については2科目で1選択とする。 ※国語と外国語は200点を50点に、他の科目は100点を50点に換算する。 ●個別学力試験 ・「国語(国語総合)」必須 ・「英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ)」、「数学(I・A)」の2科目から1科目を選択 計2科目各100点 計200点	本学 長岡 東京 福島 名古屋 富山
	環境ツーリズム学部 25名				
	企業情報学部 25名				

※大学入学共通テスト実施日：2022年1月15日(土)・16日(日) ※詳細については、学生募集要項でご確認ください。

2021(令和3)年8月

長野大学淡水生物学研究所開設

全国・アジア地域の内水面資源・淡水生物学の研究ネットワーク拠点を目指して研究を推進

長野大学淡水生物学研究所では、千曲川流域の自然を対象にした研究、国際・全国研究教育ネットワーク拠点としての役割、生物学の先端研究や増養殖技術振興の3つの活動を特色として研究を進めています。

現在の研究の柱として、信州大学や長野県水産試験場と連携し、千曲川を対象に「河川における生息地連続性の重要性—河川生態系への影響評価および保全方策：国土交通省」を進めています。また、全国35の大学等と連携する「水産資源調査・評価推進委託事業：水産庁」では、ニホンウナギ資源評価・管理のための調査、数理モデリング、統計解析、集団遺伝分析に関する研究を行っています。これら外部資金による大型研究プロジェクトは、いずれも当研究所の所長が研究代表・リーダーとして外部機関と研究グループを構成し、研究ネットワークのハブ機能を果たしています。

教育活動としては、当研究所の特徴を活かした講義・実習の2022年度開講を検討しています。

